

2019年度 文化・芸術活動に優れた者の特別選抜入学試験
 2019年度 スポーツ能力に優れた者の特別選抜入学試験
 「理工学部」

【文芸】

学科	志願者数	1次 合格者数	最終合格者数
数理科学科	0	0	0
物理科学科	0		0
電気電子工学科	0		0
電子情報工学科	0		0
機械工学科	0		0
ロボティクス学科	0		0
環境都市工学科	0		0
建築都市デザイン学科	0		0
計	0	0	0

【スポーツ】

学科	志願者数	1次 合格者数	最終合格者数
数理科学科	1	7	1
物理科学科	1		1
電気電子工学科	1		1
電子情報工学科	1		1
機械工学科	1		1
ロボティクス学科	0		0
環境都市工学科	2		2
建築都市デザイン学科	0		0
計	7	7	7

【選考講評】

1. 実施状況

上掲表のとおり。

2. 試験内容

面接試験において、高等学校で学習する数学および物理の内容について口頭試問を行い、理系の

素養を確認しました。

3. 出題意図

理工学部での学習において、どの学科においても入学直後から必要不可欠である数学と物理の基礎知識を確認するため、数学については関数の微分、直線の方程式を、物理については力学、電気回路に関する問題を出題しました。

4. 評価ポイント

正答を導くことはもちろんですが、解答の合間に必要に応じて面接委員から提示される確認や、質問を的確に理解し、それらに対応して論理的に正答を導いたり、適切な表現で質問に答えられるかを評価しました。

5. 解答状況

いくつかの問題について、自力での解答が難しいケースがみられました。ただし、解答中、計算ミスや勘違いがあった場合でも、面接委員の確認や質問の趣旨を的確に理解し、多くの場合は論理的に解答を修正できていました。

6. 次年度以降の受験生へのアドバイス

スポーツや文化、芸術活動と同じように、理工系の学修は地道な積み重ねが不可欠です。大学では主体的な学びが大前提となりますが、こうした姿勢は大学で身に着けるのではなく、高校までの積み重ねの上に成り立ちます。単に公式を覚え、問題を数多く解き慣れるだけでなく、数式が表す意味や概念を理解することが重要です。そのような理解があれば、初めて聴く講義や問題にも適切に対応していくことができるようになります。

7. 進学指導上の留意点（主に教員向け）

口頭試問では、高校で習得しているであろう理系に必要な基礎知識を確認しています。また、さまざまな問題に対して生徒自らが理解し対応できる基礎学力と論理的思考力の修得が必要であると考えます。そのため、問題に対して答えを導く基礎的な力に加えて、面接委員とのコミュニケーションを通して論理的に考察、理解、表現する力を確認しています。

以 上